



高田病後児保育所「ぬくみ」 掲示板



【2月のテーマ】 感染性胃腸炎

高田病後児保育所スタッフより

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続いています。今月のテーマは『感染性胃腸炎』です。感染性胃腸炎は、「細菌性」と「ウイルス性」があり、冬に流行する胃腸炎はほとんどがウイルス性です。感染性胃腸炎について予防法・治療法、対処法やホームケアなどお伝えします。

☆感染性胃腸炎とは？

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの病原体が原因で、腹痛・下痢・嘔吐・発熱などを引き起こします。原因となる細菌はサルモネラ・病原性大腸菌・カンピロバクターなどがあり、それらの菌が付着した生または加熱不十分な肉や魚・卵などを口にすることで感染します(食中毒)。またウイルスでは、ロタウイルス・ノロウイルス・アデノウイルスなどがあります。秋から冬場にかけてノロウイルスが特に流行します。カキなどの貝類から感染し、非常に感染力が強く、乳児から高齢者まで幅広く感染するのも特徴です。

☆予防法・治療法

感染性胃腸炎は予防が大事です。トイレや汚物に触れた後、おむつ交換後、調理や食事の前などにはしっかり手洗いをしましょう。また、食品は生肉や生ものを避けて、加熱調理する場合は十分に加熱しましょう。

基本的には脱水を防ぎ、吐き気などの症状を和らげる対症治療が中心です。細菌感染が原因の場合は抗生物質を使用することがあります。下痢の症状が強い場合は、下痢止めではなく整腸剤を使用することが多いです。

☆対処法・ホームケア

嘔吐を繰り返す、強い腹痛、脱水が疑われる場合は緊急性が高いです。すぐに受診しましょう。

観察が大切

以下の点に注意して観察し、受診時は医師に伝えましょう。メモをしておくともスムーズです。

吐いた時は

気管に入らないように、顔を下か横に向かせて、全部吐かせる。すぐに片付け、口の中をガーゼなどできれいにします。

脱水症状に注意

【脱水症状とは】

おしっこが少量もしくは濃い、唇や手の平などの乾燥、皮膚にはりがない、顔色が悪くぐったりしているなど脱水にならないように、水分を根気よく少量ずつ何回も与える。吐いた後は、時間を置いてから少量ずつから始めて徐々に増やしていく。ただし、症状がひどい場合は受診しかかりつけの指示に従う。

お尻を清潔に

おむつ交換のたびにシャワーや座浴できれいに洗い流すとただれを防ぐことができる。お尻をよく乾燥させる。

部屋の環境に気をつけましょう→秋から冬は 20℃前後、夏は 26～28℃が適温。

衣類に気をつけましょう

外出は十分休養をとってからにしましょう

ウイルス感染を防ぎましょう

便や嘔吐物は、マスクやエプロン、手袋をして拭き取り、すぐに処分。塩素系消毒薬で処理。その後はしっかり手洗い。

家族内感染を防ぐために、感染対策はとても大切です。日頃から、感染防止に必要な物品を準備しましょう。

